

## トラック輸送情報（平成28年2月分）

平成28年5月6日  
総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室  
担当：赤坂、小野、桑原 内線28723  
直通：03-5253-8346  
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

### 1. 特別積合せ貨物

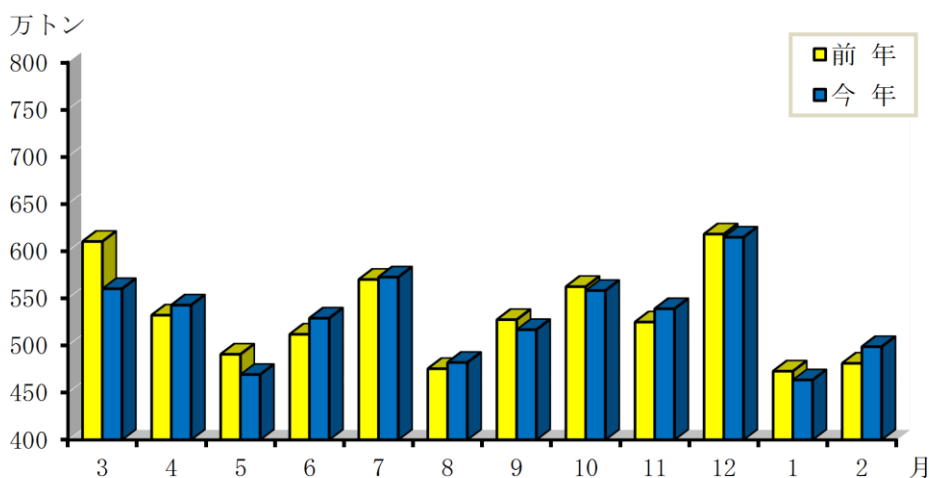
#### (1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、4,988,019トンで、前月と比べ総輸送量が約352千トン増加したため、前月比107.6%（季節調整済み96.6%）となり、前年同月との比較では、約176千トン増加したため、前年同月比103.7%の実績であった。

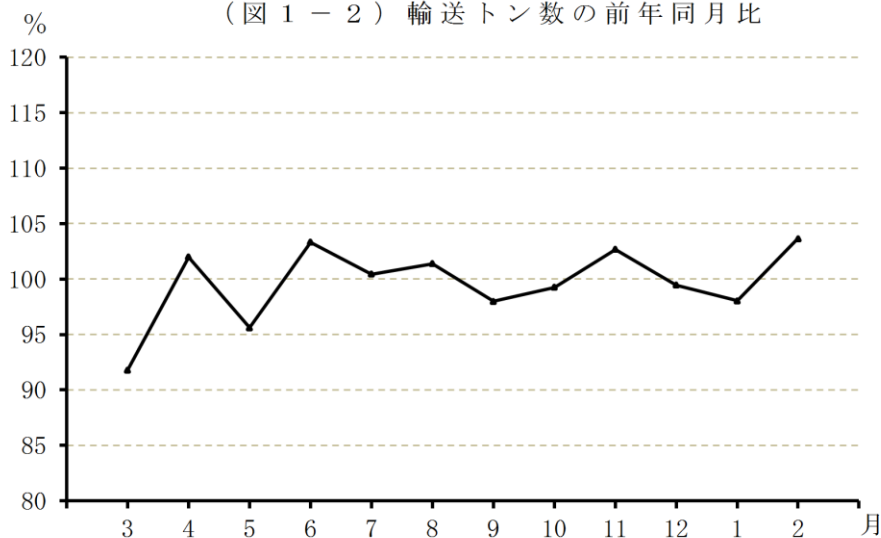
なお、平均稼働日数は23.3日で、前月と比べ1.4日増加し、前年同月との比較では、0.7日増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、214,078トンで、前月と比べ約2千トン増加したため、前月比101.1%となり、前年同月との比較では、約1千トン増加したため、前年同月比100.5%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

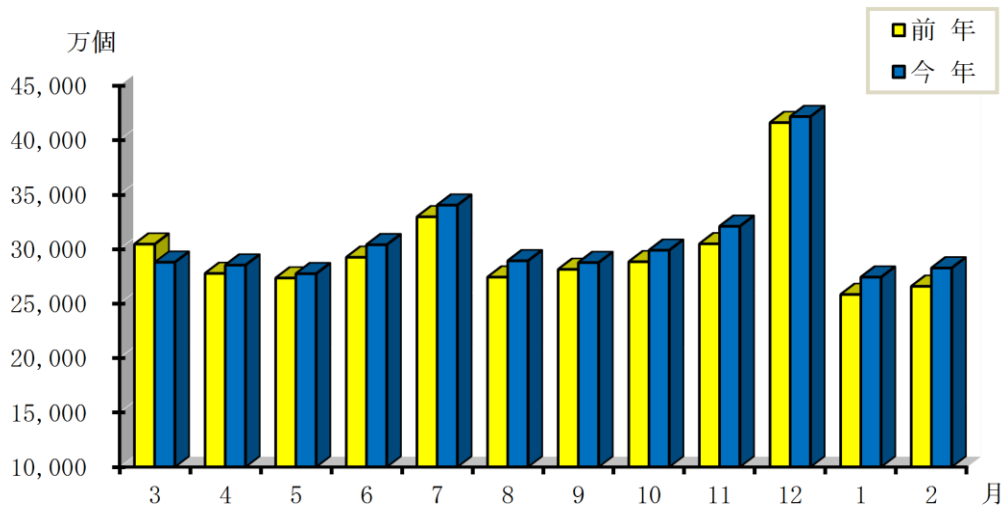


## (2) 宅配便の概況

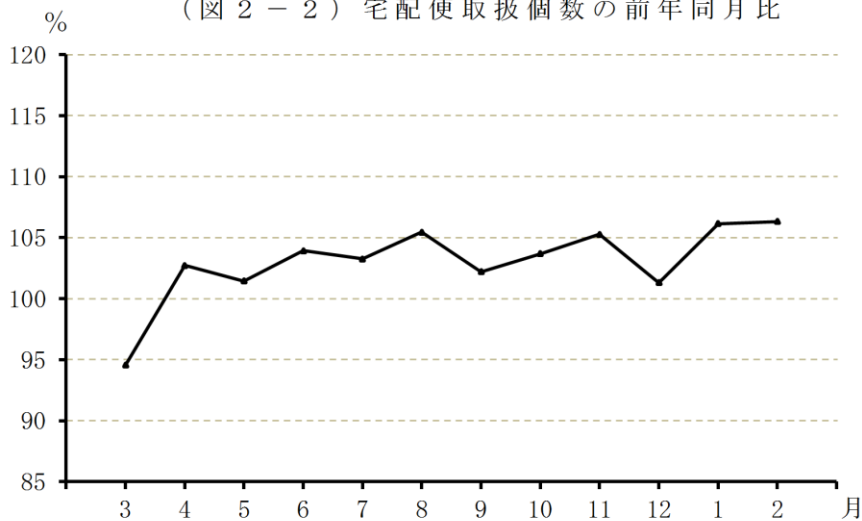
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 282,622 千個で、前月と比べ 約 8,411 千個増加したため、前月比 103.1% (季節調整済み 94.0%) となり、前年同月との比較では、約 16,833 千個増加したため、前年同月比 106.3% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



## (3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社 (24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月との比較で見ると、品目別トータルでは、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。品目ごとでは、「化学工業品」、「食料工業品」について、工場・生産地からの貨物増が主な増加要因となっている。地域別では、「関東」、「中部」、「近畿」、「中国」の各地方で貨物増となっている。

前年同月との比較で見ると、品目別トータルでは、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。品目ごとでは、「食料工業品」について、工場・生産地からの貨物増が主な増加要因となっている。地域別では、「関東」、「北陸信越」の各地方で貨物増となっている。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因
	著 増	増	変 ら ず	減	著 減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	3	2	11	1	1		4
	金属製品		4	16	1			
	機 械		7	11	2		神奈川、関東、大阪、兵庫	4
	化学工業品		10	10	2		合成樹脂、その他の化学工業品 神奈川、関東、中部地方、大阪、中国	4, 7
	繊維工業品		5	17			中国	4
	食料工業品	1	5	12	2		その他の食料工業品 関東	4, 7
	日 用 品	1	12	9			その他の日用品 関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、中国	4, 8
	そ の 他	1	8	11		1		8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	2	2	12	2			4
	金属製品		2	18	1			
	機 械	1	2	14	3			
	化学工業品		4	15	3			7
	繊維工業品		1	19	2			
	食料工業品	1	5	13	1		その他の食料工業品 関東、北陸信越	4
	日 用 品		3	16	3			
	そ の 他		6	12	2	1		8

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者797社/調査対象事業者数1,003社)の輸送量は、前月比 104.1%、前年同月比 100.8%であった。

### (表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	100.8 %	104.9 %	99.3 %	94.4 %	103.7 %	100.3 %	101.2 %	99.6 %	104.6 %	95.5 %	88.3 %	
前 月 比	104.1 %	99.1 %	105.6 %	104.3 %	108.1 %	105.6 %	110.8 %	109.8 %	105.8 %	102.8 %	91.0 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比99.1%、対前年同月比104.9%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「石炭」が、季節的需要増により「その他の石油製品」が、また、「その他の化学工業品」、「食料工業品」及び「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」が、また、「木材」、「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比105.6%、対前年同月比99.3%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「食料工業品」が、また、「木材」、「石炭」、「砂利・砂・石材」及び「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「鉄鋼」が、また、「取り合せ品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。今後の輸送見通しとしては、次月及び当分の見通しはほぼ横ばい傾向が続くと予測される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比104.3%、対前年同月比94.4%であった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比108.1%、対前年同月比103.7%であった。品目別では、建設関連の需要増により「その他の窯業品」が、また、「非鉄金属」、「機械」及び「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比105.6%、対前年同月比100.3%であった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比110.8%、対前年同月比101.2%であった。品目別では、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比109.8%、対前年同月比99.6%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の石油製品」が、建設関連の需要増により「木材」が、また、「鉄鋼」、「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降は減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比105.8%、対前年同月比104.6%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「鉄鋼」、「化学薬品」及び「紙・パルプ」が、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「機械」が、季節的需要増により「野菜・果物」が、また、「工業用非金属鉱物」、「セメント」、「その他の窯業品」及び「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比102.8%、対前年同月比95.5%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」が、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」が、また、「木材」、「機械」、「その他の製造工業品」及び「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「金属製品」が、また、「その他の窯業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比91.0%、対前年同月比88.3%であった。品目別では、「穀物」、「金属製品」、「機械」及び「金属くず」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「その他の農産品」、「工業用非金属鉱物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局 品目		北海道	東北	関東	北陸 信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国 計
		増 減	増 減	増 減	増 減	増 減	増 減	増 減	増 減	増 減	増 減	増 減
1. 穀物	増		2					1		1	1	5
	減		1							2		3
2. 野菜・果物	増	2	1						6	7		16
	減	3	2					1	2	3		11
3. その他の農産品	増	1										1
	減										1	1
4. 畜産品	増											
	減									1		1
5. 水産品	増		1			1		1		1		4
	減		1						1	2		4
6. 木材	増	1	3		1			3	1	4	1	14
	減	5	1		1			1		2	1	11
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	3	2									5
	減											
9. 金属鉱物	増											
	減				1							1
10. 砂利・砂・石材	増	2	4		1		1	2	3	3		16
	減	5	1					2				8
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1		1	1			2			6
	減		1								1	2
12. 鉄鋼	増		1		2			3	2		1	9
	減		4		1					1	1	7
13. 非鉄金属	増				2							2
	減								1			1
14. 金属製品	増				1		2	1	1	2	1	8
	減				1		1			4		6
15. 機械	増		1	1	3	2	2	4	3	4	1	21
	減			1		1	1	3		1		7
16. セメント	増	2	3		1			2	2	3		13
	減	1	1			1				2		5
17. その他の窯業品	増	1			3	1			2			7
	減	1			1		1			2		5

品目		運輸局											
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計	
18.	揮発油	増		1		1				1	1		4
		減		1									1
19.	その他の石油製品	増	3		1	1	1		6	1	1		14
		減	1								1		2
20.	コークス・ その他の石炭製品	増				1							1
		減											
21.	化学薬品	増	1			1			3				5
		減	1								1		2
22.	化学肥料	増		1		1			1	1			4
		減				1							1
23.	その他の化学工業品	増	2	1		2		1	2	1	1		10
		減			1	2		1	1				5
24.	紙・パルプ	増		1		1		1		5	2		10
		減	2					1		2	2		7
25.	繊維工業品	増					1						1
		減					1						1
26.	食料工業品	増	2	4		3		3	3	1	1	1	18
		減		2	1			1	2	2	2	1	11
27.	日用品	増	2	1		1		2	2	2	1	1	12
		減		1				2	1	1	1	1	7
28.	その他の製造工業品	増		1		1			1		2		5
		減		1	1					1			3
29.	金属くず	増		1								1	2
		減											
30.	その他のくずもの	増							1	1			2
		減								1			1
31.	動植物性飼・肥料	増	2	1		1					3		7
		減	2										2
32.	廃棄物	増	9	1			1			2			13
		減	8	1						1			10
33.	輸送用容器	増											
		減											
34.	取り合せ品	増							1			1	2
		減		2							1	1	1
35.	その他	増	2	1	1		1	4	13		9		31
		減	3		1	1		2	4	1	3		15